

教育を起点とした好循環のまちづくり 鹿妻たけひろ通信

2026年 2月発行 No.5



2025年は参議院議員選挙、つい先日は衆議院議員選挙がありました。
物価高対策、減税など生活に直結するような争点がありましたが、それ以外にも、
多文化共生やジェンダーといった、価値観の違いが表れやすいテーマについても、
考えさせられる機会となりました。

個人の価値観に関わることは、一方から「こういうデータがあるから」「他の国は
こうだから」「多くの人が支持しているから」という理由を言われても、納得はしに
くいものです。さらに多くのデータや、より多数の支持が示されたとしても、それだ
けで納得できるとは限りません。

自分の考えと異なる結果になったとしても、その過程で、対話によって互いの考え
を理解し合うことで、ある程度納得しやすくなるのではないかと思います。

市議会においても、正解がひとつで
はない課題に日々向き合っています。
自分と異なる意見を敵のように見て
いては、健全な議論、対話ができま
せん。ひいては、市政にとって悪影響
を及ぼします。

これからも、自分と異なる意見にこそ、
耳を傾ける姿勢を大切にしていきたい
と思います。



発行：鹿妻たけひろ後援会 発行責任者：鹿妻たけひろ
〒322-0076 栃木県鹿沼市上日向 307 電話 050-3188-1101

HP：<https://kazumatakehiro.com>

お友達登録
お願いします!



公式 LINE



公式 HP

議会での一般質問の概要

令和7年9月議会

・総合計画について

第8次総合計画および次期総合計画の検証のやり方について質問しました。

第8次総合計画に関しては、単に指標の達成状況だけでなく、そもそもの課題が解決されているかといった、総合的な評価をする必要があると思います。

議会としても、結果として上手くいかなかった部分を突いて市を責めるのではなく、どう改善できるかをともに考える姿勢が必要ではないかと思っています。

・教職員の休職等について

産休育休、精神的な疾患等により休職等になった教職員の状況について、また、その影響や課題への対応について質問しました。

教職員の休職の補充がされにくい状況や、そもそもの教職員の定数が不足感のある状況は、児童生徒の現在への影響はもちろん、将来にも影響を及ぼしかねません。県教委にも要望をしているということですので、ぜひそのような状況を解消していただきたいと思っています。

令和7年12月議会

・協働のまちづくりについて

総合計画等で、「協働のまちづくり」という言葉がよくつかわれているため、市の「協働」についての考え方などについて質問しました。

行政と市民・団体等との協働においては、表面的な関わりだけにならないよう、対話を通じて事業を進めていただきたいと思います。計画や、結果の検証・評価を、多様な立場から考えることで、より効果のある事業ができると考えています。



Youtube

鹿沼市議会チャンネル

一般質問等の動画はこちらからご覧ください